

これらを授業に用いている。TVオンタリオは、通常の放送電波を通じてテレビキスト（文字多重放送）サービスも行なっており、州北部では通信衛星「アニクB」がこれを各家庭に中継している。

またアルバータ州では、州電話公社と教育省が、テリドン通信教育に利用する実験を行なっている。

○ニュース・天気予報——マニトバ州の農業情報サービス「グラスルーツ」と、テレグロブ・カナダ（国際電信電話公社）の国際通信サービス「ノバテックス」は、通信社が発信するニュースを、自動的にすべてテリドン情報システムに組み入れ、議会ニュース、国際ニュース、スポーツ・ニュース、天気予報などに分けて提供する。

○ビジネス情報——「グラスルーツ」はさらに、ウィニペグ商品取引所のコン



テリドンは、情報入力端末(IPS)を使って簡単に文字や画像が入力できる。

ピューターと接続、穀物などの市況を刻々と伝える。またトロントのファックステル・インフォメーション・システムズが運営する「マーケティングファックス」は、トロント証券取引所やバンク・バー、モントリオール、ニューヨークの各証券取引所での株価の動きを分析して提供するし、「ノバテックス」のデータベースには世界の貿易統計やカナダにおけるビジネス動向が入っている。

○広告・テレシヨッピング——カナダ最大の電話会社ベル・カナダが連邦政府通信省の協力で発足させた「ビスタ」プロジェクトのデータベースには、政府や教育機関、金融機関、新聞社などの情報に加えて、小売りチェーン店のシヨッピング情報や広告も入っている。数年前にコスト高のためカタログ販売をやめたデパートのイートンは、テリドンをテレシヨッピング・サービスに利用することを検討している。テレシヨッピングというのは、利用者が自宅でボタンを押すだけで商品を選び出し、代金は口座から引いてもらうという、新しいカタログ販売である。

○消費者サービス——トロントのカーファックス社では、自動車のメーカー、車種、値段、燃費などを網羅したデータベースを作り、消費者が最も希望する製品を容易に探し出せるようにしている。これらのほかにも、カナダ全国でさまざまなテリドン利用計画が進んでおり、国内のテリドン端末機の数は今年中に約一万台増えるはずである。

また、諸外国でも、「タイム」や「フォーチュン」の発行で知られる米国のタイム社が、宇宙衛星を使った全国情報通信システムに、ロサンゼルス・タイムズ・ミラー社が幅広い情報・予約サービスに、あるいは首都ワシントンの諸機関がテレテキスト・サービスに、ベネズエラ政府が広報サービスに、テリドンを利用している。

テリドン機器の主要メーカーとしては、ノーザン・テレコム、エレクトロホーム、AELマイクロテル、ノルバック（最初のテリドン端末機を作った）などがあげられる。テリドン・システム（ハードウェア）は、ユーザー端末機（一個のユニットに統合されているものあれば、テレビ受像機にデコーダー（転換器）およびキーパッドをとりつけるものもある）のほか、絵や文字をかきこんで画面（ページ）を作る入力端末装置（マイクロコンピュター）がある。各社の機器は交換できるように設計されている。

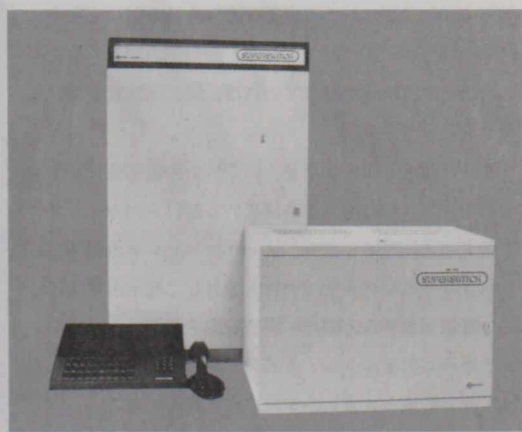
電話

カナダでは、全国的に電話のデジタル化が進んでいる。デジタル電話は、音声と0と1に符号化して発信し、再び音声化して受信する電話で、混信が防げるだけでなく、一本の回線で同時に多数の通話が扱えるため、使用料金が安いというメリットがある。電話は十人当たり六台と、世界で四番目の普及率を誇っている。

自動車などに設置される移動（無線）電話の数では、カナダは世界一である。特

にカナダ北方や西部地域の石油・天然ガス開発基地では、遠く離れた都市にある本部との電話線が引けないため、UHFやVHFの超短波帯およびマイクロ波を利用した移動電話に依存することが多い。

電話の分野でカナダの技術が特に注目されているのは、電話局及びオフィス用の交換機だろう。カナダは、デジタル交換機の開発に早くから取り組み一九七六年にはノーザン・テレコム社が世界に先駆けてDMS1という電話局用の交換機を発売した。デジタル交換機は、これまでの交換機と比べて効率的で信頼性が高く、しかも場所をとらない。カナダではすでに、大都市だけでなく、遠隔地での通話や国際通信にも広く利用されている。さらに最近では、コンピュータの情報処理能力と通信回線の情報伝達能力を結合した、高性能のPBX（私設構内交換機）も現われた。これは、電話、ワード・プロセッサ、ファクシミリなどを



マイテル社のデジタルPBX、SX-200とSX-100。